

東邦大学付属中学・高校の国際交流基礎講座に参加しました フランスを紹介する機会に喜びと感謝

マキシム・アンドリゲット（日本語教室部会）

私はマキシムと申します。フランスの南東にあるグルノーブルの出身です。4年前に、日本語を勉強するために来日しました。今、市川市に住んでいて、プログラマーとして働いています。毎週、習志野市国際交流協会の日本語教室に通っていて、少しずつ日本語を勉強しています。

2017年6月17日(土)、東邦大学付属中学・高校の国際交流基礎講座に参加しました。同校から習志野市国際交流協会へ講師派遣の求めがあり、私が紹介されたのです。

当日の昼、私は東邦中学・高校に伺いました。学生の時から、中学校に行っていないので懐かしく感じました。イベントには16人の中学生と高校生が出席していました。私は日本語で45分、フランスの教育、日本の文化との違い、フランスの料理や地方、また日常生活などについて話をしました。日本とフランスの違いを確認するために、生徒たちに日本の特徴や習慣も聞きました。フランス語がどのような言語か紹介するために、時々フランス語の言葉を入れて簡単なフランス語講座もしました。



話に聞き入る生徒のみなさん

スピーチを始める前は、本当に日本語で話せるかどうか緊張していました。しかし、話し始めると、すぐに緊張がなくなり、リラックスして話すことができました。上手に説明ができなかった部分もありましたが、その時は、生徒たちが助けてくれたり、英語の先生にも通訳していただきました。生徒たちは興味をもって聞いてくれたようですので、私は自然に話すことができました。フランスの大学の学費や、フランスの挨拶や、フランスの景色や、料理などにみんな驚いていました。スピーチの後に、生徒たちに質問をするように言いました。最初は、生徒たちは質問をするのを躊躇していたようですが、一人が質問を始めたら、次々に質問をしてくれるようになりました。

生徒たちが、違う国の文化に触れ、新しい発見ができて、興味をもってくれたことに対して、私はとても嬉しく思いました。また機会がありましたら、スピーチを改善するために、さらに生徒たちと話したいと思います。生徒たちも、もっと話す機会を与えられれば、それが楽しくなり、お互いの国の文化についてさらに新しい発見ができて、面白くなると思います。

私は子供の頃、パソコンや電子工学を教えることが夢でしたが、大人になるとその夢が



やさしく語るマキシムさん

変わり、実現はしませんでした。しかし、このイベントでその夢を思い出すことができ、いい経験になりました。

今回、生徒の皆さんや先生達が教室の準備をしてくださり、とてもありがたく思いました。さらに素敵な花束までいただいて、皆さんの優しさに感動しました。

東邦中学・高校の関係者と習志野市国際交流協会の皆さんには、フランスについての話をする機会をいただき、本当に感謝しています。



終了後、笑顔で記念の一枚。